

Never miss an opportunity to be fabulous!

-Queensland 州スカラシップを通して-

新田 健 / Ken NITTA

2018 年度、オーストラリア・クイーンズランド州のイエップーンで短期留学をしました
新田健です。

私は将来、テレビ局でニュース番組のディレクターの仕事に就くという夢を抱いています。ディレクターは 1 つのニュースに対し広い視野と当事者意識をもって番組制作に携わることが大切と考える私は、このスカラシッププログラムで国際社会にまで視野を広げるとても良い機会を得ることができました。

本レポートでは「埼玉親善大使としての活動」「Yeppoon での生活」「“変化する” オーストラリアと “守る” オーストラリア」という視点から活動報告します。

◎埼玉親善大使として

私たちは埼玉親善大使として Yeppoon State High School (以下 YSHS) で 2 週間の短期留学をし、そこで埼玉県のことや生活について紹介をしました。

事前に、都内にある私の高校での生活や埼玉県の自然・アニメ・スポーツの観点からプレゼンテーションを作成し、YSHS での日本語の授業や近隣の Farnborough という小学校でプレゼンしました。

プレゼンの中でも学校生活という点では、私の通う高校では私服で登校していることを伝えると驚いている様子でした。YSHS の先生に伺ったところオーストラリアでは学校内の安全管理の面から、学校では制服を設けていることが当たり前とのことでした。

埼玉県はアニメ作品の舞台となっている場所が多いことを紹介すると、手を挙げて質問してくれるなど日本の代表的なカルチャーであるアニメと埼玉県との関わりにとっても興味を持ってもらえました。



Year9 のクラスでプレゼン

2019 年にはオーストラリアで国技とも言えるほどポピュラーなラグビーのワールドカップ

プが開催されるほか、2020年の東京オリンピック・パラリンピックにおいて埼玉県で開催される競技もあることも紹介し、彼らに埼玉県にも来て欲しいことを伝えることができました。

◎Yeppoonでの生活

ホームステイファミリー（ホストファミリー）はお父さんお母さんと男の子3兄弟でした。自分が18歳ということで年の差がありながらも、ボードゲームや卓球をして遊んでく



れたり音楽の話をしたりととても楽しく過ごせました。アウトドア好きな一家であったこともあり、お父さんが振舞ってくれた Aussie BBQ は格別においしいものでした。自然公園を朝からウォーキング（登山といっても過言ではありません）をする日もあり、カメラを持って自然の写真を撮ることが好きな私にとって Yeppoon の自然を存分に味わわせてくれる素敵な家族でした。

自然公園にて。三男次男お父さんと

Yeppoon に行ったのは8月で、日本の四季でいう所の冬にあたる季節でした。しかしながら、私が過ごした2週間はとても日差しが強く温かい気温の日が続きました。Yeppoon では半袖で過ごしているにも関わらず、シドニーからのスポーツ中継を観るとリポーターの様子がとても寒そうだったことに驚き、国内でも気候に大きな差が生じていることに面白さを感じました。

「オーストラリアは多文化共生社会」ということを知識として知っていたもののイメージを掴めずにいた私は、様々な国や文化のルーツを持つ人たちとの出会いに当初は少し驚くこととなりました。先住民アボリジニにルーツを持つ子やあらゆる地域にルーツを持つ子など背景は多種多様。それが特に象徴されていたのが食事でした。“日本と言えば和食”“フランスと言えばフレンチ”といった具合に国を代表する料理がある場合がありますが、オーストラリアにおいてそれは無いと言えます。各家庭のルーツにより、主にイタリアンを食べたりアジア系の食事をしたりと様子は様々。昼食の時間に食べるものもサンドウィッチなど日本でも馴染みのあるものから、見たことのないも



小学生とお昼休憩

のまで。現地の生徒どうしても、違うルーツを持つ子のお弁当をみて「それは何？」と聞きあっている様子は印象的でした。



屋台でファミリーがキャン
ドル作りに挑戦しました

私たちが訪れた Yeppoon は Queensland 州でも北東部の海沿いに位置する田舎町です。スーパーや商店街に行けば必ずと言っていいほど、学校の友達やホームステイファミリーの知り合いに出会います。年に1度の Village Festival に参加すると、普段は警察官として働く人がお祭りのパーティーを手伝っていたり学校の先生と会ったりと、地域交流が盛んで仲が良いことがわかりました。このお祭りの初日に開かれたパーティーで、私はウェイターのボランティアをしました。参加者にメインを配る仕事を任されて緊張しましたが「ありがとう。働き者だね！」と声を掛けられると、とても嬉しく感じました。このように、地域の人々の温かさに触れることができた経験は私にとってかけがえのないものとなりました。

◎ “変化する” オーストラリアと “守る” オーストラリア

日本でもしばしば議論的となるジェンダー（社会的性差）やいわゆる LGBT の問題についてオーストラリアで気づいたことや話を聞いてきたことがあるのでレポートにまとめます。

オーストラリアは女性参政権がニュージーランドに次いで 2 番目に認められた国として知られています。ホームステイファミリーのお母さんによるとかつては女性運動が盛んに起こったそうですが、現在ではジェンダーレスな家庭の在り方も広まっています。YSHS や近隣の学校でも女性が校長先生を務めるなど、家庭・社会のあらゆる場面で “差” を感じさせません。お母さん自身もジェンダーを感じることはないとのことでした。

オーストラリアへ飛ぶ数日前に日本で LGBT に関する問題が話題となったこともあり、以前から問題に興味があった私はオーストラリアでの事情をホームステイファミリーのお母さんに聞くことにしました。オーストラリアで同棲婚が認められたのは 2017 年 12 月のこと。有権者の約 80% が郵便投票に参加し、約 61% が賛成したことで議会において法案が可決されました。一方で宗教や文化の違いなどの背景により、反対の論も弱いわけではなかったようです。

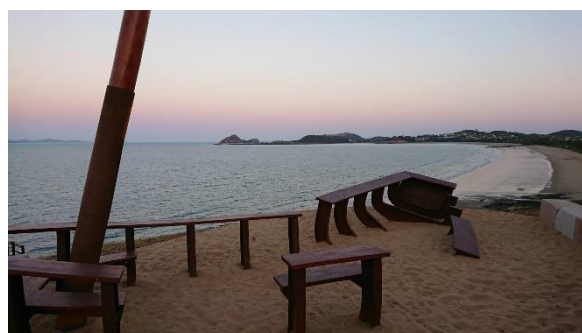
私はジェンダーや LGBT の問題などを通して、オーストラリアは社会の変化に伴って積極的に “変化する” 国であるというように感じました。

オーストラリアを象徴するものに、豊かな自然が挙げられます。Yeppoon では綺麗な海

がとても印象的でした。こういった自然はオーストラリア国民1人1人の意識から守られていると感じました。例えば、地域のゴミを収集するゴミ箱の蓋が緑・黄・赤などに色分けされていました。葉や木くずなどは緑の蓋、リサイクル可能なものは黄色の蓋で不可能なものは赤といった具合です。他にも Food Festival で注文したジュースには紙製のストローが提供されており、環境への配慮がなされていました。さらにテレビでは環境に関する番組が放送されていることもしばしばでした。ゴミ箱の色分けが守られているか抜き打ちでチェックする番組や、スーパーにおいて梱包材がいかにも多く使われているかを風刺する番組など日常生活に即しているものでした。このようにオーストラリア国民自身が環境保護に対する当事者意識をもち、環境を“守る”姿勢が見受けられました。



近隣住民でのゴミ収集用のゴミ箱



Yeppoon から望めるビーチ

私が 2 週間の間で感じたオーストラリアの性格は、社会の変化に伴い柔軟に“変化”する一方で豊かな自然など守るべきものは“守る”という姿勢にありました。前述したような多文化共生社会のオーストラリアでこの姿勢を貫いていることにとっても感心させられます。

◎まとめ

私の学校での英語の成績は恥ずかしいことに決して良いものではなく、海外渡航もしたことがありませんでした。それでもオーストラリアに行こうと決心した理由の 1 つに私のモットーがあります。“Never miss an opportunity to be fabulous.” は苦手な英語の授業で教室の最前列中央で受講している時に登場してきたセンテンスですが、私の貫きたい姿を現す一文でした。自分の理想とする姿になるためにオーストラリアでの短期留学とホームステイというチャンスを逃すわけにはいきませんでした。ジェンダー・LGBT に関する話題・(広義的意味での) 人々の多様性に興味があり大学進学後に深めたいと考えていた私にとって、オーストラリアは女性参政権が世界で 2 番目、多文化共生社会など探求心を刺激させる国そのものでした。特に多文化共生社会という点については現地に行ってみないと具体的なイメージを掴めないものだったので、私のこれからの学びに新たな視点を与える

経験となりました。



Yeppoon の友と埼玉の友と一緒に

また、無情にも成績を突き付けられて嫌いになりかけていた英語についても認識が変わりました。「強制されて学ばなければならない言語」から「話せるようになりたい言語」へと心境に変化がありました。留学期間中、友達どうしの早い会話についていけないことやホームステイファミリーのお母さんと難しい話をするときにも苦労するなど「もっと話せることができれば」と何度も思う機会がありました。この悔しい思いを糧にして英語に向き合っ

ていきたいです。

私にとってこの 2 週間は学びの面でも人間的な面でも、とても成長させられた期間でした。しかしながら“満足”はしていません。むしろ「もっと、もっと！」と好奇心に拍車がかかり、大学や社会で学び実践する糧となりました。この貴重で楽しかった 2 週間を通して私の視野は国際社会へと広がり、夢の職業に就くモチベーションがさらに熱を帯びることとなりました。この絶好の“機会”を皮切りに、自分の理想像へと近づけるように努力したいと思います。

最後に今回の短期留学では現地でできた友達をはじめ、たくさんの方々にお世話になりました。レポートには到底書ききれないほどの出会いがありました。本当にありがとうございました。



アボリジニに伝わる楽器を体験

同棲婚について数値など確認のために参照したホームページです

・BBC NEWS JAPAN『オーストラリア、同棲婚を正式に合法化』(2018年9月23日閲覧)

<https://www.bbc.com/japanese/42275644>

・BBC NEWS JAPAN『オーストラリア投票、同棲婚支持が反対を大幅に上回る』(2018

年9月23日閲覧) <https://www.bbc.com/japanese/41993147>